

監修 広報・患者サービス向上委員会  
発行 県立安芸津病院  
広島県東広島市安芸津町三津 4388  
Tel 0846-45-0055

病院理念 私たちは地域の皆様の健康と暮らしを支えるために力を尽くします



暑かった夏が過ぎ、秋本番の過ごしやすい気候になりました。

秋で連想されるものはたくさんありますが、皆さんは秋の七草を言えますか？春の七草は食べて無病息災を願うのに対し、秋の七草は眺めて楽しむ草花が選ばれています。ハギ、オバナ(ススキ)、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウの7種の草花で、これは万葉集の山上憶良の歌が起源と言われています。

あくせくと忙しい日々を送ることが多い現代ですが、自分の体調に合わせて運動を楽しんだり、名月や秋の七草を眺めれば、昔の人と同じように上手に日々の生活を楽しむことができるかもしれませんね。

夏の疲れが出易いのも今の時期です。睡眠と栄養をしっかり取って体調管理に今一度気をつけてください。

## 職員紹介



外科主任部長  
高島郁博

私は和歌山市出身で、大学進学を期に広島に住んでからはや37年になろうとしています。もともと京阪神へ行きたかったので、当初、広島に来てしまった感が強く広島弁、広島カープにはあまりなじみず、実は数年前までは巨人ファンで(子供の頃は長嶋が打席に立つとドキドキしていました)、極力そのことを隠していました。しかし、自分の子供たちが広島弁を話すのを聞いているうちに、私も時に広島弁が混じるようになり、最近の本気でカープを応援するようになり、最近の快進撃は楽しみの一つとなっています。



私の安芸津病院勤務も10年を過ぎました。初めは田舎にきたな、いつまでいるのかなと思っていましたが、その後この病院にも愛着ができ、今後も、安芸津病院を利用される方々のために尽くそうと考えています。

以前より、遠方の病院で外科手術を受けて、通院が困難となり当院に転院される患者様が少なからずいらっしゃいますが、消化器疾患に関しては、他に特別な疾患を抱えたりしていなければ当院で十分対応可能で、最初から当院で治療を受けて頂ければスムーズに行くのではと考えています。よりたくさんの住民の方々が当院を利用していただければ、当院の存続につながります。当院がなくなれば、多くの方々が困ると思います。今後とも、よろしくお願いたします。



## 内科紹介

内科主任部長 三浦敏夫

常勤医6名で構成されており、6名とも消化器病診療を専門としています。3名は食道、胃、小腸、大腸の診療を専門に行っています。早期胃癌を内視鏡的に切除する内視鏡的粘膜剥離術(ESD)や大腸ポリープと早期大腸癌に対する内視鏡的治療(ポリペクトミー・EMR)などを行っています。また、慢性の腹痛や下痢で発症する、潰瘍性大腸炎やクローン病に対する、白血球除去療法などの専門的治療も行っていきます。2名は胆嚢・胆管・膵臓疾患に対する診療を専門としています。急激な腹痛で発症する総胆管結石症発作は、日常臨床で多く見られる疾患です。内視鏡的に総胆管結石を除去すれば治療終了となります。膵管胆管造影や碎石術(ERCP・EST)などの内視鏡的治療を行っています。1名は肝疾患に対する診療を専門としています。B型慢性肝疾患やC型慢性肝疾患に対する、内服薬による抗ウイルス療法を行っています。以前はC型慢性肝炎に対しインターフェロン療法を行っていましたが、副作用も多く効果も不十分でした。最近は内服薬による治療が主流であり、3ヶ月間の内服で95%の患者さんが治癒しています。また肝細胞癌に対するラジオ波焼灼療法を行っています。内視鏡ステーションでは、毎日胃内視鏡検査や大腸内視鏡検査を行っています。

このように、消化器疾患に対しては、十分な診療が行える体制にあります。しかし、高血圧や糖尿病、呼吸器疾患などの患者様も多く来院されます。当院の内科医師は、消化器疾患だけでなく、内科疾患全般に対し、総合医として診療を行っています。消化器疾患に対する専門的治療と同時に、内科疾患全般に対する総合医的診療ができることが当院内科の特徴です。是非受診してください。



## 整形外科“人工関節外来”開設

副院長 後藤俊彦

早いもので私が安芸津病院にお世話になり17年の歳月が流れました。この間多くの患者様の手術を担当させていただき、中でも膝・股関節の人工関節置換術の手術件数は1,000例を超えました。大きな都市部での手術時平均年齢は概ね60歳代ですが当院では79歳前後です。80歳以上の患者様も非常に多く、また患者様のほとんどが術後に農業などに復帰されます。その為でしょうか？術後も患者様が非常に元気であるというのも安芸津地区の特徴ではないかと考えております。当初、人工関節の製品寿命は10年と言われていましたが、その後材質の進歩や手技の改良もあり、現在では20年は概ね大丈夫と言われるまでに延伸しました。学会では30年を目指すことがスローガンとなっています。一方、ごく少数ですが定期受診の際にごくわずかな緩みや微小な骨折など患者様本人も気が付かない小さなトラブルが生じていることがあります。こういったケースでは早期に適切な対応をとらなければ本格的な緩みや骨折に至り最終的に全部の部品を入れ替えることになりかねません。早い時期に体重をかけないようにしたり、サポータを装着することで再手術を回避出来、もし手術となっても一部の部品の交換で済むなど早期発見、早期治療のメリットは明らかです。そのため定期受診は重要です。これまでは日々の外来で人工関節置換術後の患者様を診察させていただいておりましたが、小さなトラブルを発見するにはより多くの時間をかけて診察させていただく必要があります。件数の増加に伴い日々の外来で診察させていただくことが難しくなってきました。

そのため本年6月から毎週木曜日の午後に人工関節置換術を受けられた患者様専用の“人工関節外来”を開設し完全予約制で診療を開始しました。人工関節置換術後しばらく受診しておられない患者様がおられましたら、また見かけられましたら是非声をお掛けいただき“人工関節外来”を受診、活用していただけますなら幸いです。

